

ビハーラ山陰公開講座

と き 2016(平成28)年3月13日(日)

と ころ 浜田市 いわみーる

講 師 岡山県 こまざわ小児科医院 院長 駒澤 勝

テ ー マ 「目覚めれば弥陀の懐」



ビハーラ山陰公開講座に参加して

大田西組 安楽寺 梅田明江

本年度の公開講座では、3月13日に浜田の「いわみーる」で、岡山のこまざわ小児科医院院長、駒澤勝先生から「目覚めれば弥陀の懐」というテーマでお話を聞かせていただきました。

ずいぶん前に鳥取でお話をお聞きしたことがあり、今回は是非参加したいと、楽しみにしていました。今回のお話は――

医療技術がどんなに進歩しようとも亡くなっていく子ども達はいる。その中で死んでも大丈夫、病気でも大丈夫という世界がないとかなげられない、病気の子どもさんとの深い関わりの中でそう思うようになった。そして、健康でなくても幸せをかみしめられる世界は必ずあり、それは、医学の世界にはないと気づかされた。そして、道を求めるうちに、限りなく平等な阿弥陀さまに出会い、病気でもいい、5歳で死んでも、不自由なことがあってもどちらでもよい、だめなことではないという底抜けにやさしい慈悲の世界があると思えるようになった。

差別の色眼鏡をかけ、それではいけない、と決めつけて対峙してしまう私たちにとって、阿弥陀さまに救われるということは、悩みがなくなるということではなく、思う存分悩んでもいい、悩んだまま救われていくということ。だから、信を得るということは阿弥陀さまの懐にいるとわかること――このように聞かせていただきました。

長年にわたり、お医者様の立場でいのちと向き合ってきた先生が語られる「生きる意味」を、有難く温かくいただきながら帰路につきました。

ビハーラの実践的なことは、なかなかできない私ですが、このような自分自身に問いかける機会を頂き、本当にありがとうございました。

公開講座を聞いて

浜田組 浄念寺 服部 やよ生

3月13日(日) 浜田市 いわみーるに於いて、ビハーラ公開講座が開催されました。

ご講師は、現在岡山県備前市で「こまざわ小児科医院」の院長の駒澤勝先生でした。

先生は幼いころから両親より念仏の大切さを聞かされておられたようですが、大きくなるにつれて念仏や宗教に対する事に疑問を感じて、無視したり、反発したり、また口先だけで念仏を称えたりして、よくわからない念仏の話よりも、科学的な考えのほうが納得できて頼れると思えたそうです。そして医学の道に進まれて、小児科医となり、病院においては病気の子どもを診察するようになると、治って元気になって行く様子に充実感を味わい、念仏の世界からは遠ざかっていかれたようです。

ある時特別に思いを込めていた患者さんが亡くなったのを機に、科学や医学の限界を感じ、「宗教こそが動じない富士山であり、医学がたなびく雲ではなかろうか」と『教行信証』を読み始め、34年前に理解出来たそうです。

阿弥陀さまは、生きるも死ぬも平等で、何のこともわりもなく「それでいい」と死を認められますが、私たちはいくら頑張っても出来ません。阿弥陀さまと同じ意見になれない自分、しかも阿弥陀さまの意見を押しやって自分を通そうとする反逆も「それでいい」と阿弥陀さまが言って下さることが、先生が小児科医が出来る根拠があり、支えがあるといわれ、私たちはやがて死んでいく身ですが、死んでも離しはしなうと言って、死んだ後もちゃんと阿弥陀さまの懐の中にあり、その懐の中から出ることはない。

先生のお話から先生の優しさ、暖かさが伝わりました。そして本当に阿弥陀さまの懐の大きさを感じ取りました。